

令和3年度版

# ザイセイの話



愛知県新城市

# 目次

1 . はじめに	1
2 . 新城市の財政状況は？	1
3 . 新城市の財政健全度は？	2
(1) 公債費比率・実質公債費比率	2
(2) 将来負担比率	3
(3) 経常収支比率	3
(4) 市債（市の借入金）	4
(5) 市債残高の推移	5
(6) 職員数	6
(7) 基金（市の貯金）	7
(8) 令和元年度の財政状況を示す指標	8
財政力	8
財政構造の弾力性	8
将来負担の状況	9
公債費負担の状況	9
職員定員管理の状況	10
人件費・物件費等の状況	10
給与水準（国との比較）	11
4 . 財務書類ってなに？	12
5 . 連結財務書類からわかることは？	12
貸借対照表	13
行政コスト計算書	14
純資産変動計算書	15
資金収支計算書	16
6 . 連結財務書類からわかる各種指標	17
7 . 予算ってどうやってつくられるの？	18
8 . 新城市の予算ってどのくらいの規模なの？	19
9 . 一般会計の収入や支出にはどんなものがあるの？	20
市の予算を家庭の家計簿に例えると	22
<b>資料編</b> 令和2年度決算状況（普通会計決算カード）	24
令和2年度目的税（入湯税、都市計画税）などの充当状況	26

## 1. はじめに

「私たちのまちの財政は、どんな状況なんだろう？大丈夫なの？」とされている方も多いと思います。

市では、毎年、市民のみなさんに「ザイセイの話」を作成し、私たちのまちの財政状況をお知らせしています。「数字ばかりで、難しいなあ」と思われるかもしれませんが、新城市の財政状況をありのままお伝えするようにしています。

合併直後は、3つの市町村の事務を1つにするため、財政的に大変苦しいときもありましたが、財政健全化に努めてきたことで、市の財政状況は徐々に良くなってきました。

今年の「ザイセイの話」は、過去5年間の財政状況の推移や予算の内容、市の予算を家庭の家計簿に例えたものなどを掲載しています。お時間のあるときに読んでいただき、少しでも興味をもっていただければ幸いです。



## 2. 新城市の財政状況は？

平成19年に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定され、この法律によって地方公共団体の財政状況を統一的な指標で明らかにするように義務化されました。この法律で定める指標は、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つです。（2・3ページに用語の説明、数値の推移を掲載しています。）

これら4つの指標をもとに、財政状況が危険水準に入ったと判断される場合には、財政の健全化や再生に向けて再建計画（財政健全化計画、財政再生計画）をつくり、改善に取り組むこととなります。



令和2年度末時点の新城市の状況ですが、実質赤字比率、連結実質赤字比率とも赤字にはなっていません。

実質公債費比率は、3か年の平均値で25%以上の場合が危険水準であると定められていますが、平成30年度から令和2年度までの3か年平均値で6.6%となっています。また、将来負担比率は、危険水準が350%以上のところ、令和2年度決算では62.6%となりました。

実質公債費比率、将来負担比率ともに平成19年度と比較すると大きく改善されていますが、市債（借入金）残高の増加や基金（貯金）残高の減少などにより平成29年度以降、数値は上昇傾向です。引き続き、借入金と返済額のバランスを保ち市債（借入金）残高の抑制を図るとともに、計画的な基金（貯金）積立てを行い、財政の健全性の堅持に取り組んでいきます。

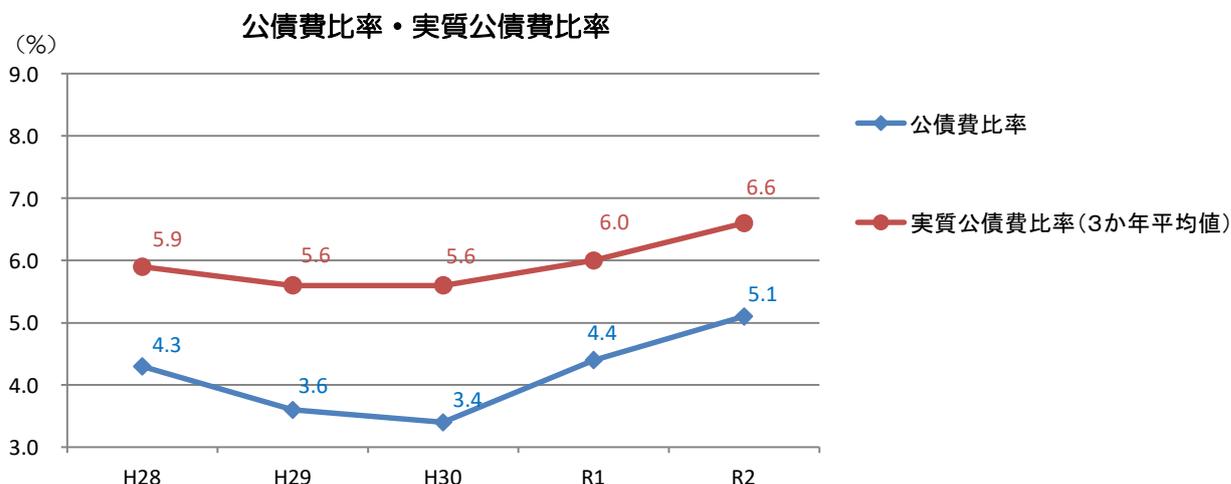
### 3. 新都市の財政健全度は？

#### (1) 公債費比率・実質公債費比率

公債費比率とは、財政の弾力性を判断する指標の一つです。普通会計（下記用語説明参照）の市債の返済に必要な一般財源の額と標準財政規模（標準的な状態で通常収入される見込みの一般財源の額）との比率を示します。

実質公債費比率も、財政構造の弾力性を判断する指標で、「公債費比率」と異なるのは、分子の地方債の返済に必要な一般財源の額に水道事業や市民病院など公営企業の支払う元利償還金への一般会計からの繰出金、一部事務組合等の公債費類似経費（準公債費）も含んで算定していることです。

どちらの指標も、数字が小さくなるほど健全度が高くなります。



(単位：%)

	H28	H29	H30	R1	R2	前年度との比較
公債費比率	4.3	3.6	3.4	4.4	5.1	0.7
実質公債費比率(3か年平均値)	5.9	5.6	5.6	6.0	6.6	0.6
実質公債費比率(単年度)	5.9	5.6	5.5	7.1	7.2	0.1
実質赤字比率	—	—	—	—	—	—
連結実質赤字比率	—	—	—	—	—	—

※実質赤字比率及び連結実質赤字比率は赤字となっていないため「—」の記号で表示しています。

★普通会計とは：一般会計と特別会計のうち公営企業会計（上水道・下水道等公営企業会計及び国民健康保険事業特別会計等）以外の会計を統合して一つの会計としてまとめたものです。新都市の場合は、平成28年度に地域下水道事業特別会計が公営企業会計へ移行しましたので、平成28年度からは一般会計のみとなりました。

【参考】健全化判断基準（令和2年度）

(単位：%)

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
早期健全化基準	12.78	17.78	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

※上記基準数値を上回ると「早期健全化団体（イエローカード）」又は「財政再生団体（レッドカード）」となります。

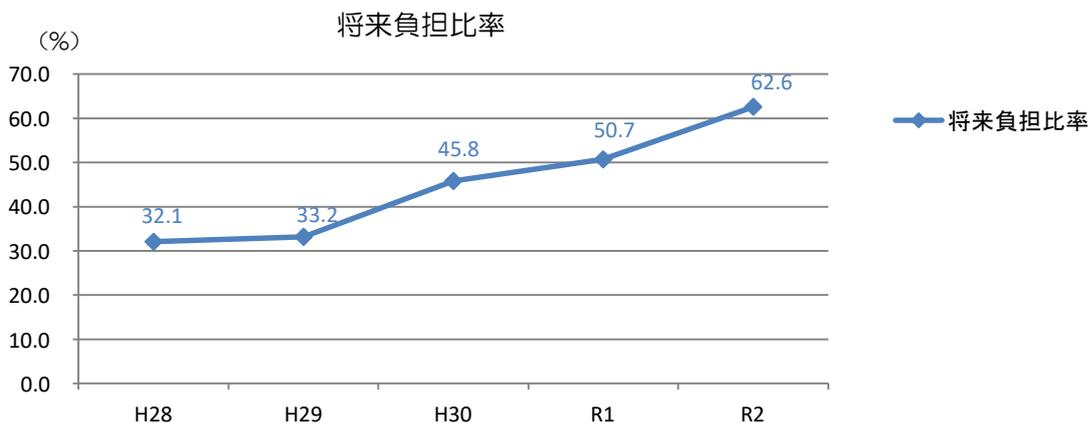
実質赤字比率：普通会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率

連結実質赤字比率：全会計を対象とした実質赤字（又は資金の不足額）の標準財政規模に対する比率

## (2) 将来負担比率

財政構造の弾力性を判断する指標の一つで、地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係るものも含め、市債現在高、退職給与引当金に相当する額等その地方公共団体の一般会計等が将来負担すべき実質的な負担額の総額について、標準財政規模に対する比率を示すものです。公債費比率と同じく数字が小さいほど、健全度が高くなります。

前年度と比べると、11.9ポイント増加していますが、これは、市町村合併後計画的に整備を進めている大型建設事業に対する合併特例債の積極的な活用などにより市債現在高が増加したことに加え、財政調整基金や庁舎等建設基金などの充当可能基金も減少したことが主な要因です。

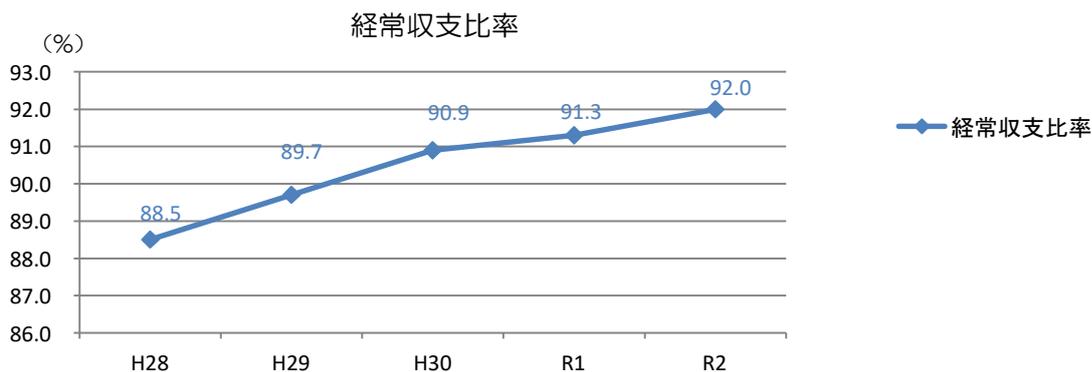


(単位：%)

	H28	H29	H30	R1	R2	前年度との比較
将来負担比率	32.1	33.2	45.8	50.7	62.6	11.9

## (3) 経常収支比率

財政構造の弾力性を判断する指標の一つで、毎年度経常的に収入される財源のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費に充当されたものが占める割合を示します。この比率を下げるとさらに柔軟な市政運営を行うことができます。



(単位：%)

	H28	H29	H30	R1	R2	前年度との比較
経常収支比率	88.5	89.7	90.9	91.3	92.0	0.7

人件費：職員給料、議員報酬、退職手当などの経費

扶助費：社会保障制度の一環として、生活困窮者、高齢者、心身障がい者等に対して行っている様々な支援経費

公債費：地方公共団体が借り入れた市債の返済に要する経費

## (4) 市債（市の借入金）

学校や道路などの公共施設は、施設の耐用年数により長期間利用していただけます。現在お住まいの市民のみなさんも利用されますし、将来新城市にお住まいになられる方も利用されます。常に住民異動がありますので、それぞれの年度に新城市にお住まいの方が平等に施設の建設費用を負担して世代間の公平性を保つという考え方で、施設の建設費を市債で借り、長期間にわたって建設費を分割して返済をしていきます。

令和2年度末の市債の借入状況は、次のとおりです。

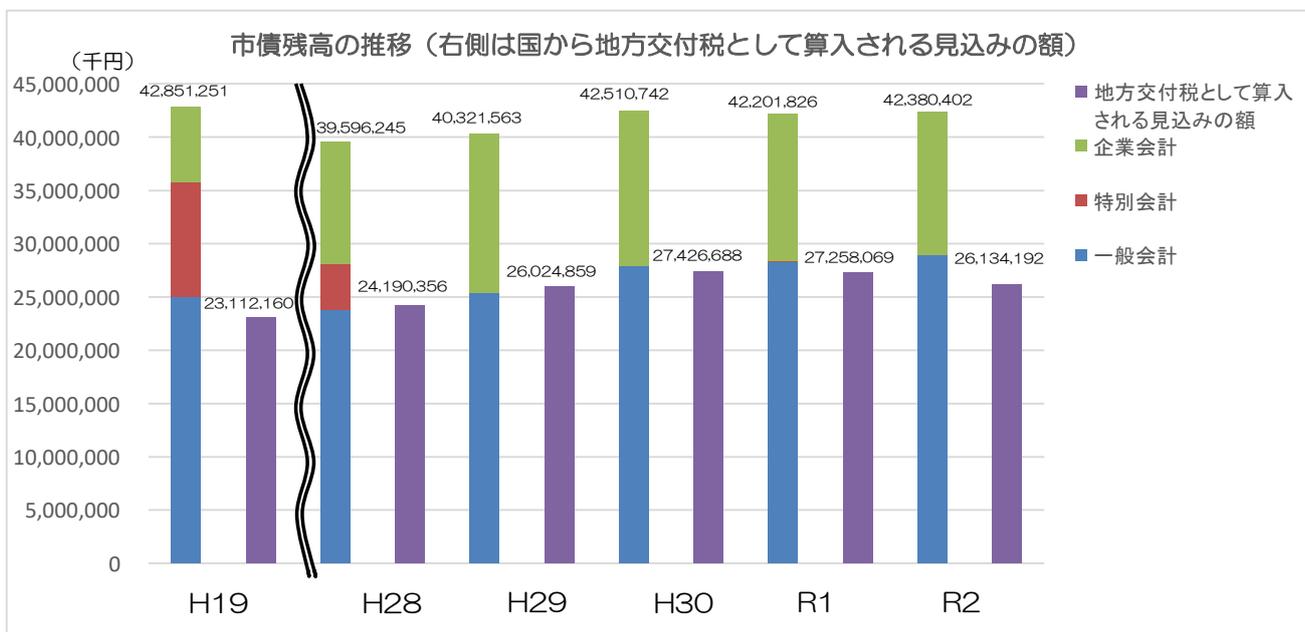
(単位：千円)

区 分	令和2年度末現在高	対象となる事業
公共事業等債	1,061,507	国全体から見て必要とされる事業
公営住宅建設事業債	240,401	市が建設する公営住宅建設事業
災害復旧事業債	143,563	災害にあった施設を原形に復旧する事業
教育・福祉施設等整備事業債	1,126,246	小・中学校施設、市が行う一般廃棄物処理施設、社会福祉施設等の整備事業
全国防災事業債	301,371	東日本大震災を教訓として、全国的に緊急に実施する必要性が高く、即効性のある防災・減災等のための事業
緊急防災・減災事業債		
一般単独事業債	10,751,646	臨時的かつ多額の負担となる建設事業で、緊急に整備を要するもの
うち合併特例債	10,125,803	合併後の市町村が市町村建設計画に基づいて行う事業又は基金（みんなのまちづくり基金）の積立金等
辺地対策事業債	172,021	「辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律」の総合整備計画に基づいて実施する事業
過疎対策事業債	3,249,160	「過疎地域自立促進特別措置法」の過疎地域自立市町村計画に基づいて実施する事業
財源対策債	930,615	一定事業の起債の充当率を引き上げて財源対策として実施されたもの
減収補てん債	157,100	地方税の収入が地方交付税算定における標準税収入額を下回った場合の減収補てん
減税補てん債	93,178	平成11年度からの恒久的な減税と平成15年度からの先行減税に伴う減収補てん
臨時財政対策債	10,349,605	地方交付税の代替として借り入れたもの
その他	352,560	公営企業（水道、病院など）への出資
一般会計 計	28,928,973	
国民健康保険診療所特別会計	8,089	作手診療所の整備
病院事業会計	1,251,180	市民病院の整備
水道事業会計	6,380,297	上水道施設の整備
工業用水道事業会計	11,660	有海企業団地の工業用水道施設の整備
下水道事業会計	5,797,203	下水道等施設の整備
総合計	42,377,402	

## (5) 市債残高の推移

合併直後の平成18年度から平成19年度は、合併に伴う事業が多く実施されたことにより借入額が増加し、平成19年度末は市全体で約429億円の残高がありました。その後は財政健全化に取り組み、借入額を抑制してきましたが、近年は、庁舎建設やし尿等下水道投入施設等の大型建設事業に伴う借入れにより、令和2年度末で約424億円で、平成19年度と比べ約4億7千万円の減少にとどまっています。令和2年度については、前年度に比べ総額で1億7千万円超の増加、一般会計では約6億円の増加となっています。

また、総額のうち将来地方交付税として国から交付される見込みの額は、令和2年度で約261億円ですので、実質の残高は約162億円ということになります。



(単位：千円)

	H19	H28	H29	H30	R1	R2
一般会計	24,961,851	23,774,344	25,413,453	27,922,725	28,324,273	28,928,973
特別会計	10,857,445	4,316,107	11,147	9,431	10,092	11,089
国民健康保険診療所	38,758	13,200	11,147	9,431	10,092	11,089
簡易水道事業	3,891,883	4,302,907	0	0	0	0
農業集落排水事業	998,071	0	0	0	0	0
公共下水道事業	5,603,188	0	0	0	0	0
宅地造成事業	325,545	0	0	0	0	0
企業会計	7,031,955	11,505,794	14,896,963	14,578,586	13,867,461	13,440,340
病院事業	4,450,657	2,099,518	1,738,352	1,879,261	1,513,329	1,251,180
水道事業	2,581,298	2,931,773	6,883,516	6,648,426	6,446,452	6,380,297
工業用水道事業	0	14,896	14,107	13,305	12,490	11,660
下水道事業	0	6,459,607	6,260,988	6,037,594	5,895,190	5,797,203
合計	42,851,251	39,596,245	40,321,563	42,510,742	42,201,826	42,380,402

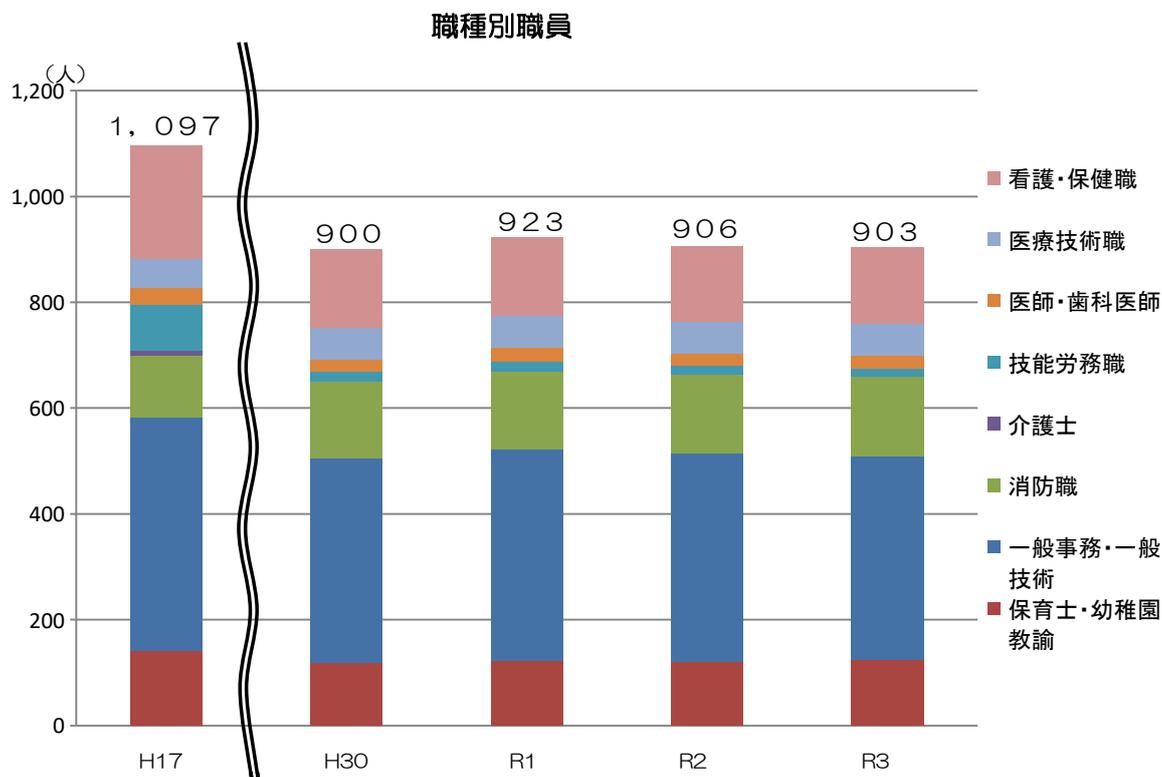
### 市債残高のうち将来地方交付税として算入される見込みの額と市の実質負担見込額の推移

(単位：千円)

	H19	H28	H29	H30	R1	R2
市債残高 (①)	42,851,251	39,596,245	40,321,563	42,510,742	42,201,826	42,380,402
地方交付税算入見込額	23,112,160	24,190,356	26,024,859	27,426,688	27,258,069	26,134,192
(②)	53.9%	61.1%	64.5%	64.5%	64.6%	61.7%
市の実質負担見込額	19,739,091	15,405,889	14,296,704	15,084,054	14,943,757	16,246,210
(①-②)	46.1%	38.9%	35.5%	35.5%	35.4%	38.3%

## (6) 職員数

合併時には、市役所、保育所、幼稚園、小中学校、消防本部・消防署、各種施設、市民病院（医師・看護師・技術職等を含む）など、全てで1,097人の職員が在籍していました。職員数は第4次定員適正化計画に沿って管理を行っており、令和3年度は業務の統合や退職者の不補充により一般事務・一般技術は減少しましたが、消防職を消防業務の充実強化のため増員、保育士・幼稚園教諭を未満児保育の需要の高まりに対応するため増員しました。令和3年4月現在では903人が在籍しており、合併時と比較し194人減少しています。なお、介護士は平成25年度に老人ホームを指定管理者制度による外部運営へ変更したため0人となっています。



(単位: 人)

区分	H17	H30	R1	R2	R3	増減 (R3-H17)
一般事務・一般技術	442	388	399	394	386	△ 56
保育士・幼稚園教諭	140	117	122	120	123	△ 17
消防職	117	145	147	148	149	32
介護士	9	0	0	0	0	△ 9
技能労務職	86	17	20	17	17	△ 69
医師・歯科医師	34	24	26	24	24	△ 10
医療技術職	53	59	59	59	60	7
看護・保健職	216	150	150	144	144	△ 72
<b>合計</b>	<b>1,097</b>	<b>900</b>	<b>923</b>	<b>906</b>	<b>903</b>	<b>△ 194</b>

※職員数は各年4月1日現在の人数

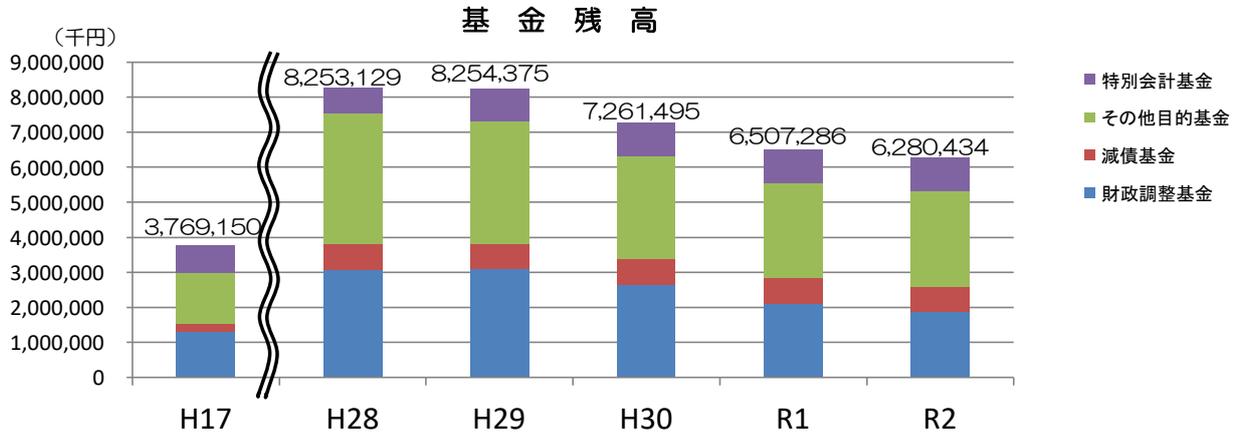


## (7) 基金（市の貯金）

新城市では、市政運営に支障を来たさないように、急な収入減への対応や特定の事業を行うために、計画的に貯金してきました。

新城市全体の基金額は、平成17年度末に約37億7千万円でしたが、令和2年度末には、前年度より約2億3千万円少ない約62億8千万円となりました。

基金の内訳では、一般会計の基金は財政調整基金を約2億6千万円、庁舎等建設基金を約1億5千万円を取り崩したことなどにより、約3億9千万円減少しました。



### ○基金の種類と現在高

(単位：千円)

	H17	H28	H29	H30	R1	R2
財政調整基金	1,300,625	3,088,694	3,093,277	2,644,677	2,117,651	1,861,432
減債基金	244,123	727,915	728,655	729,652	729,977	731,028
その他目的基金	1,447,568	3,722,449	3,491,941	2,938,100	2,709,815	2,737,017
ふるさと創生基金	295,533	22,617	8,758	0	0	0
みんなのまちづくり基金	0	1,649,974	1,573,160	1,506,970	1,441,240	1,393,385
国際交流基金	143,158	103,009	91,106	51,925	37,650	27,116
庁舎等建設基金	217,508	1,425,247	1,317,138	899,073	715,816	566,044
作手山村交流施設建設基金	130,000	0	0	0	0	0
ゴルフ場開発地域振興基金	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
地域福祉基金	295,445	249,883	230,452	200,566	186,753	184,222
ふるさと農村活性化対策基金	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
ふるさと水と土保全基金	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
つくで手作り村管理基金	6,852	17,363	18,096	18,807	19,533	20,256
風来ゆ〜ゆ〜ありいな維持管理基金	5,128	5,233	5,244	5,251	5,255	5,262
湯谷温泉の維持管理基金	76,951	0	0	0	0	0
一般廃棄物処理施設整備基金	19,812	20,390	20,431	20,458	20,472	20,501
図書購入基金	3,000	0	0	0	0	0
長條城址史跡保存館施設整備基金	2,228	2,292	2,297	2,300	2,301	2,304
教育・スポーツ・文化振興基金	0	8,479	3,042	1,980	0	0
もっくる新城維持管理基金	0	1,962	6,217	9,390	11,275	12,282
ニューキャッスル・アライアンス交流基金	0	0	0	5,380	3,963	3,963
新城駅構内バリアフリー化基金	0	0	0	0	10,949	15,530
森づくり基金	0	0	0	0	38,608	104,743
新型コロナウイルス感染症対策利子補給基金	0	0	0	0	0	10,000
新型コロナウイルス感染症対策基金	0	0	0	0	0	155,409
H27以前に廃止した基金	35,953					
<b>一般会計 計</b>	<b>2,992,316</b>	<b>7,539,058</b>	<b>7,313,873</b>	<b>6,312,429</b>	<b>5,557,443</b>	<b>5,329,477</b>
国民健康保険事業特別会計	578,292	574,943	736,939	949,066	949,843	950,957
国民健康保険事業基金	578,292	574,943	736,939	949,066	949,843	950,957
介護保険事業特別会計	87,430	139,128	203,563	0	0	0
介護給付費準備基金	87,430	139,128	203,563	0	0	0
簡易水道事業特別会計	58,857	0	0	0	0	0
簡易水道事業基金	58,857	0	0	0	0	0
H27以前に廃止した基金	52,255					
<b>特別会計 計</b>	<b>776,834</b>	<b>714,071</b>	<b>940,502</b>	<b>949,066</b>	<b>949,843</b>	<b>950,957</b>
<b>総合計</b>	<b>3,769,150</b>	<b>8,253,129</b>	<b>8,254,375</b>	<b>7,261,495</b>	<b>6,507,286</b>	<b>6,280,434</b>

※ 現在高には出納整理期間中の積立てと取崩しを反映しています。

## (8) 令和元年度の財政状況を示す指標

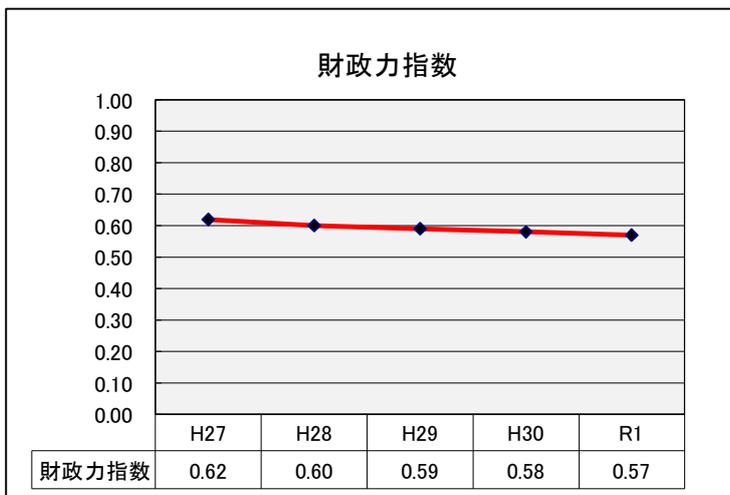
ここでは、令和元年度における財政比較分析表を作成し、独自に分析したものを公表します。なお、令和2年度数値は、現在総務省で取りまとめ中です。

### 財政力

【財政力指数】

**0.57**

財政力指数は、地方公共団体の財政基盤の強弱を示す指標で、標準的な行政活動に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表しており、普通交付税の算定基礎となる基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の3か年平均値をいいます。



#### 分析結果への対応

前年度より0.01ポイント減少しましたが、依然として類似団体平均(0.41)を上回っています。

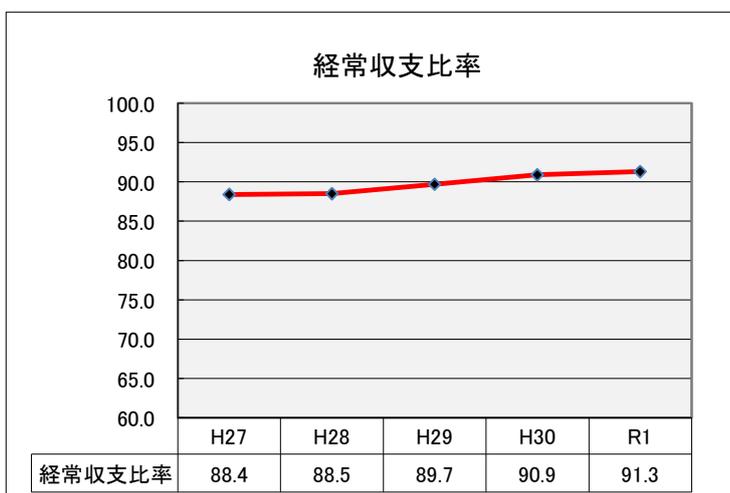
根幹的な自主財源である市税の大幅な伸びは見込めず、また令和2年度まで合併算定替えの縮減により普通交付税の減少も見込まれます。このような背景を踏まえ、平成30年度に策定した新都市財政健全化推進プランに基づき、自主財源の確保に努めるとともに、事務効率化等の歳出見直しや公共施設等管理適正化に取り組んでいきます。

### 財政構造の弾力性

【経常収支比率】

**91.3%**

経常収支比率とは、税などの一般財源を、人件費や扶助費、公債費など経常的に支出する経費にどれくらい充当しているかをみることで、財政の弾力性を判断するものです。この比率が高くなるほど、財政構造の硬直化が進み、公共施設の整備など建設事業の経費に充当する財源の余裕が少なくなります。



#### 分析結果への対応

経常収支比率は91.3%となり、類似団体平均(92.4%)より下回っているものの平成30年度に続き90%を超過しています。経常経費充当一般財源等は前年度と同水準を維持しましたが、臨時財政対策債の折半対象財源不足額解消に伴い発行額が減少したことが影響しているものと分析しています。

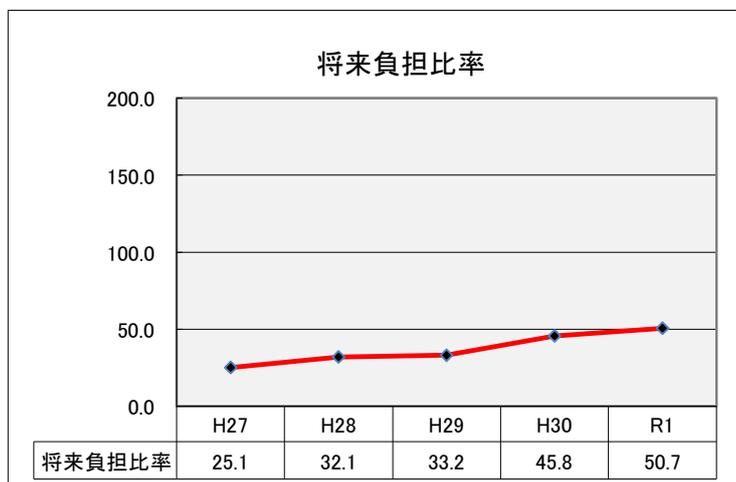
今後も、財政構造の硬直化を抑制するため、事務事業の見直しを進め、経常経費の削減に努めます。

## 将来負担の状況

【将来負担比率】

# 50.7%

公社や第三セクターなども加えた連結ベースで、自治体が将来的に負担する可能性のある借金の総額が、自治体本体の1年間の収入と比べてどれくらい多いかを示します。350%を超えると黄信号といわれています。



### 分析結果への対応

将来負担額について市債残高が増加したこと、将来負担額への充当可能財源等である財政調整基金を取り崩したことなどにより前年度より4.9ポイント増加しました。

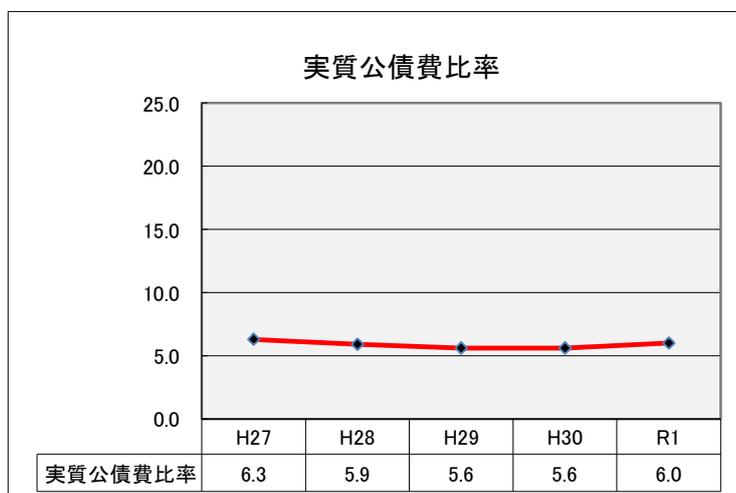
今後は、鳳来総合支所等整備事業や学校給食施設改築事業などに旧合併特例事業債を中心に大型の市債発行を予定していますが、市債の発行については必要性を精査し、また財政調整基金を取り崩さない財政運営に努め、将来負担の抑制に取り組みます。

## 公債費負担の状況

【実質公債費比率】

# 6.0%

平成18年4月に地方債制度が「許可制度」から「協議制度」に移行したことに伴い導入された財政指標で、公債費（借入金返済費）による財政負担の程度を示すものです。従来の「起債制限比率」に反映されていなかった公営企業（特別会計を含む）の公債費への一般会計繰出金、PFIや一部事務組合の公債費への負担金、債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるもの等の公債費類似経費を算入した3か年平均の値となります。



### 分析結果への対応

前年度に比べ0.4%上昇しましたが、類似団体平均（8.5%）を下回りました。算定初年度の平成18年度には15.7%でしたが、財政健全化に努めた結果、9.7ポイントの改善を図ることができています。

今後も、市債を計画的に発行していくとともに、財源確保に努め、市債に大きく依存しない財政運営を進めていきます。

18%以上の団体：引き続き地方債の発行に許可が必要

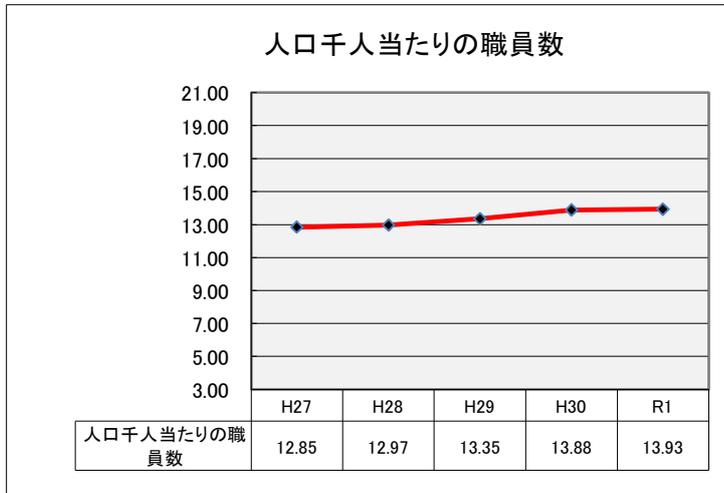
25%以上の団体：一般事業等の起債が制限

## 職員定員管理 の状況

【人口千人当たりの職員数】

# 13.93 人

人口千人に占める職員の人数です。



### 分析結果への対応

近隣町村の常備消防業務を受託していること、市内に2箇所の民間小規模保育所はあるものの、それ以外の15箇所のこども園は市直営で運営していること等の特殊要因が影響し、類似団体平均（9.84）を大きく上回っています。今後も第4次定員適正化計画に基づき職員数の適正化に引き続き努めていきます。

## 人件費・物件費等の状況

【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】

# 192,402 円

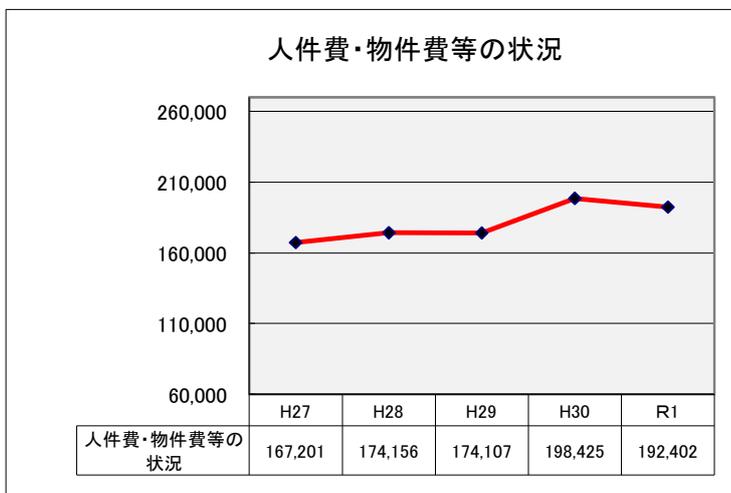
人件費とは、報酬や給与など現金支給されるものと、それ以外の費用（共済組合の負担金等）を含む人事関連費用の総額です。

物件費とは、旅費、消耗品費や委託料など、他の性質に属さない消費的経費です。

維持補修費とは、施設の修繕料など施設の効用を維持するために支出された経費です。

この3つの経費の人口1人当たりの決算額を比較しています。

※人件費、物件費及び維持補修費の合計です。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含みません。



### 分析結果への対応

人口1人当たり人件費・物件費等決算額は、前年度に比べ6,023円減少しましたが、依然として類似団体平均（174,574円）を上回っている状況です。

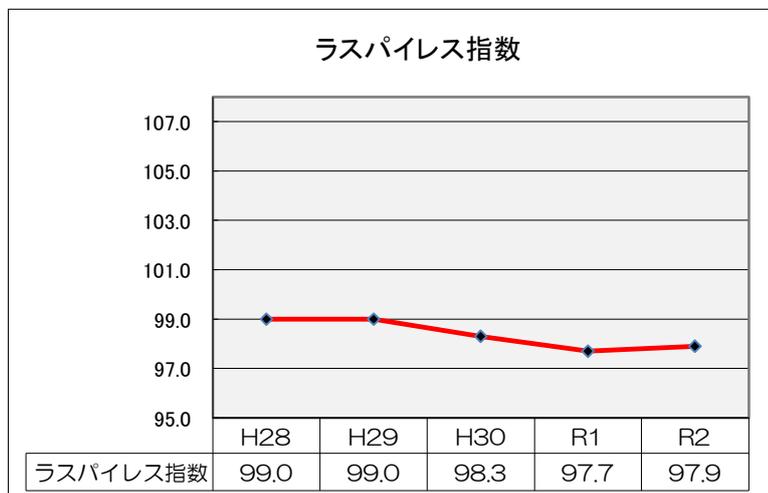
人件費については、近隣町村からの消防業務受託など特殊要因が影響していますが、第4次定員適正化計画に基づき職員数の適正化に引き続き努め、人件費の抑制を図ります。物件費についても、事務の効率化や公共施設の廃止、譲渡などの整理を継続し、更なる経費削減に努めていきます。

**給与水準  
(国との比較)**

【ラスパイレス指数】

**97.9**

地方公務員の給与額を、同等の職種、経歴に相当する国家公務員の給与額を100として比較した場合に算出されるものです。



**分析結果への対応**

今後とも給与制度の適切な見直しを行い、給与水準の適正化に努めていきます。

**新城市の状況（令和2年度）**

人口	44,937人	(R3.3.31現在)
面積	499.23 km <sup>2</sup>	
標準財政規模	14,924,338 千円	
歳入総額	30,253,208 千円	
歳出総額	29,314,205 千円	
翌年度繰越財源	129,909 千円	
実質収支	809,094 千円	



## 4. 財務書類ってなに？

地方公共団体の会計方式は、予算の適正・確実な執行を図るという観点から、単年度の現金収支に着目した「単式簿記・現金主義」で整理されていますが、過去に取得した資産や負債といったストック情報や、減価償却費等といった現金支出を伴わないコストを把握することができないという問題点がありました。

平成18年には「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律（いわゆる行革推進法）」が成立し、行政改革の一つとして地方公共団体は資産及び債務の把握管理体制を整備することになり、これと関係して「地方公会計制度」として民間企業の会計方式（複式簿記・発生主義）を導入する取組みが推進されてきました。地方公会計制度に基づき作成した財務書類は、単式簿記・現金主義会計からは読み取ることのできないストックやコストの情報を提供し、従来の決算書を補完する役割を担っています。これに基づき、新城市でも平成20年度決算から財務書類を公表しています。

### ○公会計制度整備の目的

- ①資産・債務管理
- ②費用管理
- ③財務情報のわかりやすい開示
- ④政策評価・予算編成・決算分析との関連付け
- ⑤地方議会における予算・決算審議での利用

## 5. 連結財務書類からわかることは？

- ①現金主義の予算・決算書類では見えにくかった資産・債務の把握（ストックの把握）
- ②地方公社・第三セクター等と連結した連結財務書類の作成による決算全体の把握
- ③資産・債務改革への対応（資産の実態を踏まえた売却、転用）
- ④財務情報に関する情報開示と説明責任
- ⑤地方財政に係る効率化・適正化の判断資料

新城市における令和元年度の連結対象の会計、地方公社、第三セクター等は、下記のとおりです。

連結財務書類	一般会計等 財務書類	一般会計	普通会計	
			一般会計	
	全体財務書類	特別会計	公営事業会計	
			国民健康保険事業 後期高齢者医療 国民健康保険診療所 宅地造成事業	
			病院事業 水道事業 工業用水道事業 下水道事業	
			うち 公営企業会計	
				一部事務組合・広域連合
	新城北設楽交通災害共済組合 愛知県後期高齢者医療広域連合、東三河広域連合			
				地方公社・第三セクター等
	新城市土地開発公社 (公財) 農林業公社しんしろ、(有) つくで手作り村			

## ○貸借対照表

会計年度末（令和2年3月31日時点）における市の財政状態を明らかにすることを目的に、資産・負債・純資産の3区分に分けて表示しています。行政サービスを行うために所有している財産（資産）を借方へ、それらの資産を形成するために要した財源内訳（負債・純資産）を貸方へ集計しています。

貸方に計上されている負債は、将来返済や支出が必要となるものであり、純資産は資産の総額から負債を差し引いた正味の財産です。

（単位：百万円）

借 方				貸 方			
【資産の部】				【負債の部】			
	一般会計等	全体	連結		一般会計等	全体	連結
有形固定資産	120,858	156,883	156,932	固定負債	30,658	62,609	62,221
無形固定資産	4	750	790	流動負債	2,990	5,497	6,700
投資その他の資産	11,598	1,897	1,647	<b>負債合計</b>	<b>33,648</b>	<b>68,106</b>	<b>68,922</b>
流動資産	3,405	8,252	10,907	【純資産の部】			
				<b>純資産合計</b>	<b>102,216</b>	<b>99,676</b>	<b>101,354</b>
<b>資産合計</b>	<b>135,864</b>	<b>167,782</b>	<b>170,276</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>135,864</b>	<b>167,782</b>	<b>170,276</b>

※表示単位未満四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

### ●資産の内訳は？（連結区分）

- ・インフラ資産 100,212 百万円 58.9%
- ・事業用資産 52,848 百万円 31.0%
- ・流動資産 10,907 百万円 6.4%
- ・投資その他 1,647 百万円 1.0%
- ・その他 4,662 百万円 2.7%

道路や橋りょうといったインフラ資産と、学校や市民利用施設等といった事業用資産で市の資産の大半を占めていることがわかります。

### ●負債・純資産の内訳は？（連結区分）

- ・地方債等 38,397 百万円 22.5%
- ・1年内償還予定地方債等 5,085 百万円 3.0%
- ・退職手当引当金 5,071 百万円 3.0%
- ・その他の負債 20,369 百万円 12.0%
- ・純資産 101,354 百万円 59.5%

負債・純資産のうち、約26%を借入金である地方債が占めています。



## ○行政コスト計算書

1年間（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）の行政サービスに要した費用と、行政サービスの直接的な対価である使用料などの収益を集計し、費用から収益を差し引いたものが純行政コストとなります。費用には、減価償却費や引当金繰入額などの現金支出が伴わないコストも含まれています。

（単位：百万円）

項 目	一般会計等	全 体	連 結
経常費用 (A)	20,853	30,919	40,461
経常収益 (B)	1,013	5,352	6,786
純経常行政コスト (C=A-B)	19,839	25,567	33,675
臨時損失 (D)	31	31	395
臨時利益 (E)	185	334	334
純行政コスト (C+D-E)	19,686	25,264	33,735

※表示単位未満四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

### ●経常費用の内訳は？（連結区分）

・移転費用	19,257	百万円	47.6 %
・物件費等	12,566	百万円	31.1 %
・人件費	7,853	百万円	19.4 %
・その他	785	百万円	1.9 %

経常費用の約半分を、補助金等といった移転費用が占めています。物件費の中には、減価償却費といった現金支出が伴わない費用も含まれています。

経常費用－経常収益

臨時損失－臨時利益

純行政コスト

## ○純資産変動計算書

貸借対照表の「純資産」について、当年度中の増減内訳を示しています。行政サービスに係る収支不足額である「純行政コスト」が、税金や補助金などの財源によってどの程度賄われ、将来世代へ引き継ぐ「純資産」がどの程度蓄積しているのかを見ることができます。

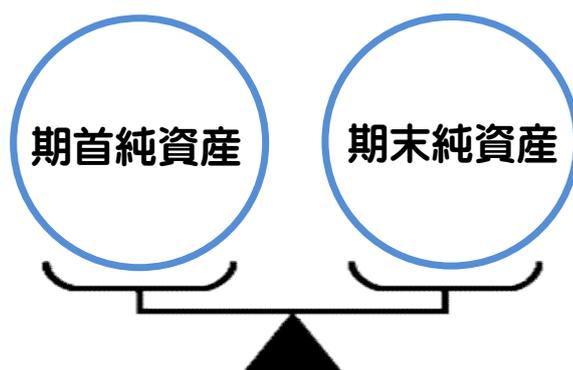
(単位：百万円)

項 目	一般会計等	全 体	連 結
純行政コスト (F)	19,686	25,264	33,735
税金等、国県等補助金 (G)	18,289	23,937	32,947
資産評価差額等 (H)	△ 92	△ 48	△ 37
本年度純資産変動額 (I=G+H-F)	△ 1,488	△ 1,279	△ 825
前年度末純資産残高	103,705	100,955	102,179
本年度末純資産残高	102,216	99,676	101,354

※表示単位未満四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

### ●純資産変動の状況は？（連結区分）

行政サービスの提供に要した費用のうち、使用料等の直接的な対価によって賄うことができなかった収支不足額である「純行政コスト」33,735百万円については、税金等と国県等補助金の合計32,947百万円で補てんし、補てん不足分789百万円には前年度以前に蓄積した純資産残高が充てられました。純資産総額も前年度末と比べ825百万円減少となりました。



## ○資金収支計算書

1年間の資金収支を業務活動、投資活動、財務活動の3区分に分けて表示しています。1年間の行政活動に伴う資金の流れ（キャッシュ・フロー）がどのような要因でどの程度生じているのかを見ることができます。

（単位：百万円）

項 目	一般会計等	全 体	連 結
業務活動収支	1,856	2,893	2,747
投資活動収支	△ 2,262	△ 2,748	△ 2,784
財務活動収支	402	134	226
本年度資金収支額	△ 4	279	189
前年度末資金残高	948	4,443	4,858
本年度末資金残高 (A)	944	4,722	5,042
本年度末歳計外現金残高 (B)	54	54	54
本年度末現金預金残高 (A+B)	998	4,776	5,096

※表示単位未満四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

### ●業務活動収支

経常的な行政サービス提供に伴う資金収支を示しています。収入には、税金の他、国県補助金や事業収入を計上しています。支出には、職員の人件費や物品等の購入、補助金等といった行政サービスを行うために要した経費を計上しています。

### ●投資活動収支

固定資産や市の貯金である基金の増減に関する資金収支を示しています。収入には、固定資産の形成に関する国県補助金や固定資産売却収入を計上しています。支出には、工事請負費など固定資産の形成に要した経費の他、出資金や貸付金を計上しています。

### ●財務活動収支

外部からの資金調達やその償還に関する資金収支を示しています。市債の発行収入と償還元金を計上しています。

## 6. 連結財務書類からわかる各種指標

### ① 純資産比率【純資産/総資産】 59.5%

- 地方公共団体は、地方債の発行を通じて将来世代と現世代との負担配分を行っており、純資産の変動はその負担配分が変動したことを意味しています。純資産比率は、行政サービスを提供するために市が所有している資産のうち、どの程度過去及び現世代が負担して財源を調達しているかを見るもので、世代間の公平性を測ることができます。
- 一般企業における「自己資本比率」に相当するものです。

### ② 市民1人当たりの資産と負債、行政コスト

資産：372万円 負債：151万円 純行政コスト：74万円

〔令和2年3月31日現在の住民基本台帳人口：45,745人〕

- 貸借対照表、行政コスト計算書を用いて、市民1人当たりの資産と負債、行政コストを求めたものです。

### ③ 有形固定資産減価償却率【減価償却累計額/償却資産取得価格】 54.3%

- 有形固定資産のうち、償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、資産の耐用年数に対してどの程度資産が老朽化しているかを把握することができます。

### ④ 行政コスト対税収等比率【純経常行政コスト/(税収等+国県等補助金)】 102.2%

- 当該年度の税収等のうち、どれだけが資産形成を伴わない行政コストに費消されたのかを把握する指標で、数値が100%に近いほど資産形成の余裕度は低いと言えます。
- 100%を上回ると、過去に蓄積した資産が取り崩されていることを示します。

### ⑤ 基礎的財政収支（プライマリーバランス）【業務活動収支+投資活動収支】

△3億3,400万円

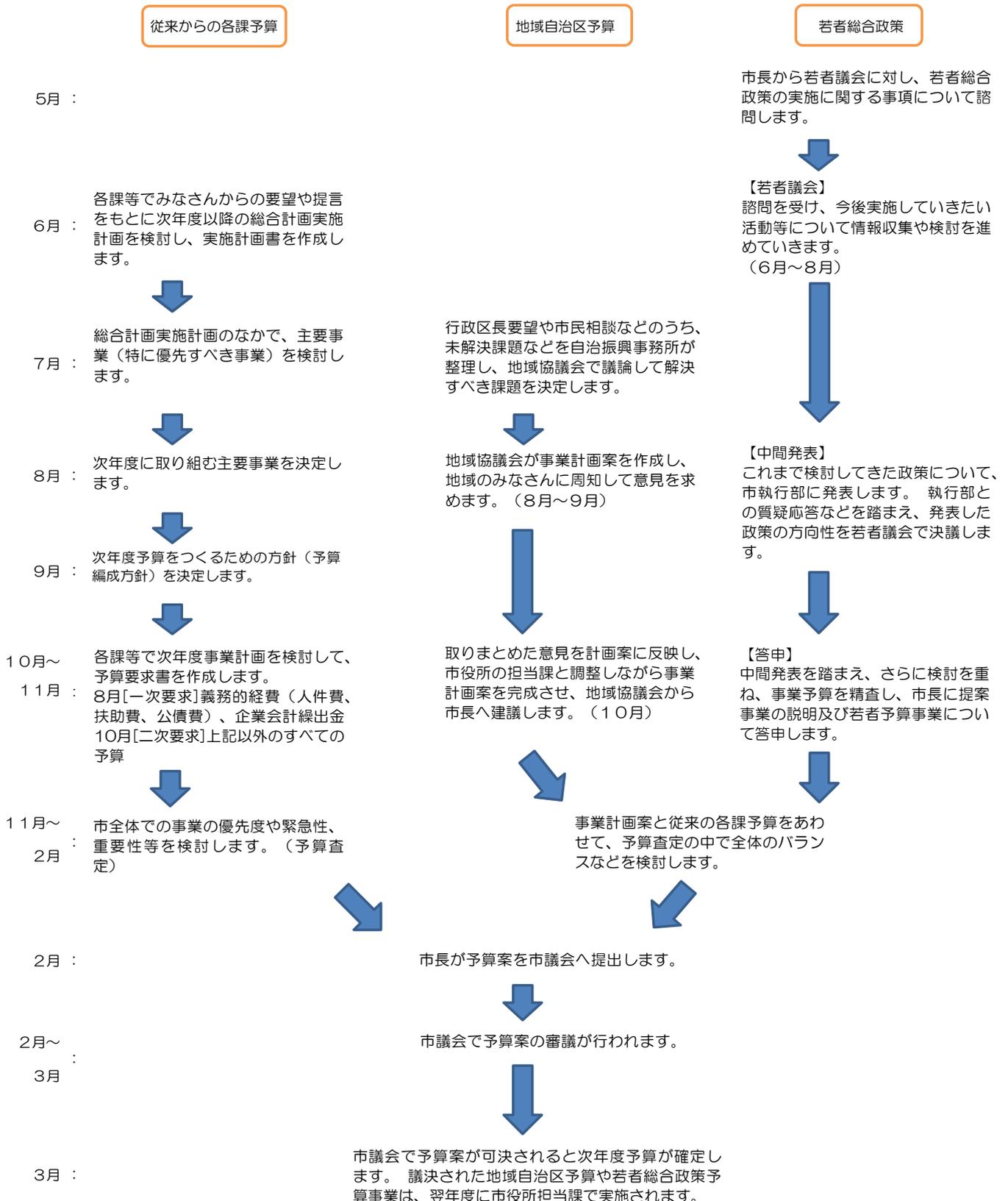
- 財政の持続可能性・健全性を見る指標です。地方公共団体の資金収支のうち、財務活動（地方債の借入と返済）を除いた資金収支の安定性を把握することができます。
- この指標は黒字の範囲内に抑えることが望ましいとされています。

## 7. 予算ってどうやってつくられるの？

市の予算は、一年間に市でどのような事業を行うかを前もって計画し、金額で表したものです。市独自の事業のほか、国や県の政策を実行に移すものなど、様々な経費が含まれています。

平成25年度から地域自治区制度、平成27年度からは若者議会による新しい資金的なしくみができました。従来の各課予算とともに、それぞれ次のような流れで予算案が作成されます。

### 予算編成から次年度予算確定までの流れ



## 8. 新城市の予算ってどのくらいの規模なの？

【令和3年度】

**一般会計 228億6,000万円**

新城市の基本的で中心的な経費を集計した会計で、市税などを財源にしています。

**特別会計 62億8,953万4千円**

特定の事業を行う目的で一般会計から分けて運営をする会計です。主に受益者（利用者）の負担金などを財源にしています。

**企業会計 93億446万1千円**

病院・水道・下水道など、企業会計方式で運営する会計で、使用料等の収入で経費をまかなう目的で住民サービスを提供する会計です。

**総額で 384億5,399万5千円 です。**

(単位：千円)

会計区分	令和3年度	令和2年度	内容
	予算額	予算額	
一般会計	22,860,000	23,887,000	
特別会計	国民健康保険事業	4,535,900	4,660,100 国民健康保険法に基づき医療費の支払いを行います
	後期高齢者医療	1,462,400	1,418,300 保険料の徴収や申請・届出などの窓口業務を行います
	国民健康保険診療所	132,800	152,500 作手地区にある診療所の運営を行います
	宅地造成事業	34,800	35,000 定住促進のため、宅地販売を行います
	財産区	123,634	134,253 15の財産区（共有財産管理組織）の管理運営経費です
	小計	6,289,534	6,400,153
企業会計	病院事業	4,823,191	4,721,494 新城市民病院の運営を行います
	水道事業	2,653,533	3,075,541 水道施設の新設、維持管理を行います
	工業用水道事業	14,437	14,809 新城有海地区の工業用水道施設の維持管理を行います
	下水道事業	1,813,300	1,791,277 下水道施設の新設、維持管理を行います
	小計	9,304,461	9,603,121
合計	38,453,995	39,890,274	

## 9. 一般会計の収入や支出にはどんなものがあるの？

一般会計

(単位：千円・%)

歳入	令和3年度		内容	令和2年度決算額
	予算額	構成比		
市税	7,046,000	30.8	市民の皆さんから納めていただいている、市民税、固定資産税、軽自動車税などです	7,157,346
地方交付税	5,600,000	24.5	全国の市町村の財政の均衡をとる目的で国から交付されるお金で、補助金とは違って、どのような事業にも使うことのできる収入です	6,193,026
国庫支出金	1,733,401	7.6	道路や学校体育館などを建設する際、基準に合うものは、国から一定割合の補助金などを受けて実施します	7,237,390
県支出金	1,399,750	6.1	さまざまな事業を行うなかで、一定基準に合うものは、県から補助金などを受けて実施します	1,470,886
繰入金	451,860	2.0	市ではいろいろな基金（貯金）をもっていますが、必要に応じ、取り崩して利用しています	554,820
繰越金	300,000	1.3	前年度の（歳入決算額－歳出決算額）で残るお金です	940,784
諸収入	878,743	3.8	他の分類に入らない収入です。主なものに貸付金の元利収入や公共補償（国の仕事に付属した工事を市が代行したときの国からの負担金）などがあります	934,583
市債	2,710,600	11.9	財務省、地方公共団体金融機構、市中銀行等から建設事業などの資金を借り入れています	3,206,300
その他収入	2,739,646	12.0	使用料、手数料、国県からの交付金（地方譲与税）などです	2,558,073
合計	22,860,000	100.0		30,253,208

(単位：千円・%)

歳 出	令和3年度		内 容	令和2年度決算額
	予算額	構成比		
議会費	200,583	0.9	議会を運営するための経費です	188,295
総務費	2,916,152	12.7	庁舎の管理、選挙、戸籍管理などの経費です	7,854,561
民生費	6,612,585	28.9	保育所の運営、子供の医療費助成、障害者福祉、高齢者福祉などの経費です	6,625,094
衛生費	3,408,120	14.9	市民の健康づくりサポート、保健センターの運営、環境問題への取り組み、クリーンセンターの管理、ゴミ収集などの経費です	2,988,594
労働費	84,110	0.4	勤労青少年ホームの運営、勤労者対策などの経費です	83,764
農林水産業費	1,156,123	5.1	農業、畜産振興を図るための補助、林道整備、農業用水路の改修などの経費です	1,255,726
商工費	845,051	3.7	商工業振興のための補助、融資、観光宣伝、観光施設や湯谷温泉源維持などの経費です	1,530,531
土木費	1,642,490	7.2	道路や橋の新設改良、河川改修、中心市街地活性化のためのまちづくりなどの経費です	1,970,490
消防費	1,580,100	6.9	消防署の運営、消防団活動のサポート、南海トラフ巨大地震をはじめとした災害対策などの経費です	1,505,883
教育費	1,471,022	6.4	小・中学校の管理運営、地域に根付いた文化財の保護助成、地域文化広場を中心とした文化事業の開催、スポーツ施設の管理やスポーツイベント開催などの経費です	2,453,795
災害復旧費	45,901	0.2	風水害などによる、農林業災害、土木施設災害などに対応する経費です（規模によっては、補正予算で追加します）	149,716
公債費	2,847,763	12.5	これまでに借り入れた市債の元利償還金などです	2,707,756
予備費	50,000	0.2	突発的な事柄が起きた場合に対応するために準備しておく経費です（実際に必要になったときには必要になった科目に移し替えて執行します）	0
合 計	22,860,000	100.0		29,314,205

市の予算を家庭の家計簿に例えると

# 新 城 市 の

(令和3年度予算を、一世帯で年収600万円)

## 一般会計予算(歳入)

収入

(単位：千円)			1ヶ月あたり	
市税	皆さんから納めていただいている税金です	7,046,000	給料・	194,730円
分担金及び負担金	事業に係る経費の一部を負担してもらうお金です	506,677	パート収入など	
使用料及び手数料	施設やサービスを利用するときに支払っていただくお金です	363,771	親からの仕送り	228,870円
繰越金	前年度で残ったお金です	300,000		
財産収入・雑入など	市が所有する財産の貸付や運用により受け取るお金などです	686,750	住宅ローン、マイカーローンなど金融機関からの借金	59,290円
地方交付税 地方消費税交付金 地方譲与税など	皆さんが国や県に納めた税金の一部で、国や県から交付されるお金です	7,330,782		
国庫支出金 県支出金	国や県から交付されるお金です	3,133,151	貸したお金の戻し入れ	7,230円
市債	事業などを行うために借りるお金です	2,710,600		
貸付金元利収入	法令や条例により貸し付けたお金の返済金です	330,409	貯金の引出し	9,880円
繰入金	積立している基金などから取り崩すお金です	451,860		
<b>合 計</b>		<b>22,860,000</b>	<b>合 計</b>	<b>500,000円</b>
基金残高	急な収入減への対応や特定の事業を行うために積み立てたお金です	5,329,477	貯金残高	1,398,813円

# 家計簿

(月収50万円) の家庭に例えると)

支出

一般会計予算 (歳出・性質別)

1ヶ月あたり

(単位：千円)

食費	129,570円	人件費	議員、職員などに支払われる報酬、給与などです	5,923,968
医療費など	61,990円	扶助費	児童、高齢者、障がい者などへの支援や生活保護などにお金です	2,833,964
光熱水費など	118,610円	物件費	委託料、消耗品、旅費などの一般行政経費として使うお金です	3,751,253
		補助費など	各種補助金、負担金などです	1,671,470
家や家具などの修理代	1,640円	維持補修費	施設などの修繕にお金です	74,914
子どもたちへの仕送り	69,070円	繰出金	一般会計から特別会計等へ支出されるお金です	3,157,963
借金の返済	62,290円	公債費	借入金の返済、利息の支払いのためのお金です	2,847,763
家の増改築など	41,270円	普通建設事業費など	道路、学校などの建設、整備をするお金です	1,887,064
		貸付金など	法令や条例により貸し付けられるお金です	711,641
貸すお金	15,560円	合計		22,860,000
合計	500,000円			

借金残高	7,592,906円	市債残高	公共施設の建設、整備などのために借りているお金です	28,928,973
------	------------	------	---------------------------	------------

うち、5,798,309円は親から仕送られる予定で、実質の返済実額は1,794,597円です。

貯金残高と借金残高は、令和2年度の一般会計の基金残高と市債残高を年収600万円の家庭に置き換えた場合の数字です。

令和 ( 2 ) 年度  
決算状況

市町村名	新城市	コード番号	232211	市町村類型	I-O
所在地	愛知県新城市宇東入船115番地			(2) 年度交付税種地区分	I-2

国調	区分	人口	面積	人口密度	人口集中地区人口	産業構造			
						区分	第1次	第2次	第3次
調	27年 (27年10月1日)	47,133人	499.23km <sup>2</sup>	94.4人/km <sup>2</sup>	9,345人	27年 国調	2,066人	9,096人	12,831人
	22年 (22年10月1日)	49,864人	499.00km <sup>2</sup>	99.9人/km <sup>2</sup>	9,975人		8.6%	37.9%	53.5%
	増加率	△5.5%	0.0%	△5.5%	△6.3%	人口	2,217人	10,196人	13,067人
住民台	(3). 1. 1	45,245人 17,679世帯	40.10.1以降の合併状況	H17.10.1合併 新城市、鳳来町、作手村	国調		8.7%	40%	51.3%
基本	[2]. 1. 1	46,029人 17,699世帯	市町村制施行年月日	平成17年10月1日					

区分	令和[1]年度	令和(2)年度	区分	指数等	指定団体等の状況
1 歳入総額 A	24,303,495千円	30,157,596千円	基準財政需要額	12,310,004千円	中(都市開発部) 旧工特 市町村圏 山振 過疎 指数表選定 土地開発公社 設立の有・無 設立年月日 昭和48年11月30日 債務保証額 千円 4,000,000 事務の共同 処理の状況 交通災害 後期高齢者医療 東三河広域連合
2 歳出総額 B	23,362,711千円	29,218,593千円	基準財政収入額	6,869,136千円	
3 歳入歳出差引額 A-B	940,784千円	939,003千円	標準税収入額等	8,682,956千円	
4 翌年度へ繰り越すべき財源 D	194,394千円	129,909千円	標準財政規模	14,924,338千円	
5 実質収支 C-D	746,390千円	809,094千円	うち臨財債発行可能額	703,459千円	
6 単年度収支 F	△104,271千円	62,704千円	財政力指数 ( )内は単年度	0.57 (0.56)	
7 積立金 (財調) G	1,586千円	78,898千円	実質収支比率	5.4%	
8 繰上償還金 H	0千円	0千円	公債費比率	5.1%	
9 積立金取崩額 (財調) I	528,612千円	335,116千円	積立金現在高(財調、減債基金、特定目的基金)	5,329,421千円	
10 実質単年度収支 F+G+H-I	△631,297千円	△193,514千円	地方債現在高	28,928,973千円	
健全化判断比率	実質赤字比率	-	-	債務負担行為額	1,117,950千円
	連結実質赤字比率	-	-	収益事業収入額	0千円
	実質公債費比率 ( )内は単年度	6.0 (7.1)	6.6 (7.2)	土地開発基金	600,000千円
	将来負担比率	50.7	62.6	特別職等	

区分	職員数 A (R3.4.1現在)	給料月額 B (R3.4.1現在)	1人当り支給月額 B/A	区分	改定実施年月日	1人当り平均給料(報酬)月額
( )は一般行政職一般職員	(307)人 636	(92,714)千円 185,330	(302,000)円 291,400	市長	H17.10.1	925,000円
うち技能労務職	12	3,162	263,500	副市長	H17.10.1	775,000
うち消防職員	149	43,031	288,800	教育長	H17.10.1	680,000
教育公務員	4	1,606	401,600	議会議長	H17.10.1	489,000
臨時職員	0	0	0	議会副議長	H17.10.1	409,000
合計	640	186,937	292,089	議会議員	H17.10.1	372,000 (18人)

営業状況	事業名	法適用の有無	収支額	普通会計からの繰入額	職員数	区分	国保会計	
							収支額	加入世帯数
営	上水道	有	△539,591千円	411,468千円	15人	収支額	13,283千円	
	工業用水道	有	855	0	1	普通会計からの繰入額	318,303千円	
	病院	一部有	△30,765	880,958	324	加入世帯数	6,224世帯	
	国民健康保険	無	13,283	318,303	11	被保険者数	9,816人	
	国民健康保険診療所	無	3,001	29,114	8	一世帯当り保険税調定額	178,325円	
	介護保険	無	0	0	0	被保険者一人当り保険税調定額	113,070円	
	介護サービス(老人デイ)	無	0	0	0	被保険者一人当り費用	368,862円	
	介護サービス(訪問看護)	無	0	33,131	12			
	公共下水道	有	△72,528	224,214	6			
	農業集落排水	有	△19,760	97,348	2			
況	地域下水道	有	5,014	6,062	0			
	宅地造成	無	620	0	0			
	後期高齢者医療	無	19,077	700,600	3			

(注) (2)は調査年度 [1]は調査前年度 (3)は調査次年度を記入。

市町村名		新城市				類型		I-O		指定金融機関名			三菱UFJ銀行新城支店		
歳入								性質別歳出							
区分		決算額	構成比	経常一般財源等K	Kの構成比	区分		決算額	構成比	一般財源等	経常一般財源等	経常収支比率			
		千円	%	千円	%			千円	%	千円	千円	%			
地方税		7,157,346	23.7	6,892,787	47.6	人件費		5,443,834	18.6	4,735,333	4,409,053	29.0			
地方譲与税		347,595	1.2	347,595	2.4	うち職員給		3,467,822	11.9	2,894,544	2,721,170	17.9			
利子割交付金		5,903	0.0	5,903	0.1	扶助費		2,765,241	9.5	974,483	960,711	6.3			
配当割交付金		34,562	0.1	34,562	0.2	公債費		2,707,756	9.3	2,675,835	2,675,835	17.6			
株式等譲渡所得割交付金		32,577	0.1	32,577	0.2	内 元利償還金		2,707,756	9.3	2,675,835	2,675,835	17.6			
地方消費税交付金		1,027,661	3.4	1,027,661	7.1	訳 一時借入金利息		0	0.0	0	0	0.0			
ゴルフ場利用税交付金		61,251	0.2	61,251	0.4	小 計		10,916,831	37.4	8,385,651	8,045,599	52.9			
軽油・自動車取得税交付金		0	0.0	0	0.0	物件費		3,586,561	12.3	2,855,721	2,409,351	15.9			
自動車税環境性能割交付金		50,260	0.2	50,260	0.4	維持補修費		163,407	0.5	126,584	120,543	0.8			
法人事業税交付金		42,745	0.2	42,745	0.3	補助費等		8,101,285	27.7	3,062,585	2,400,077	15.8			
地方特例交付金		63,068	0.2	63,068	0.4	積立金		325,542	1.1	311,295	0	0.0			
地方交付税		6,193,026	20.5	5,537,923	38.3	投資及び出資金・貸付金		576,232	2.0	544,332	304,000	2.0			
普通交付税		5,537,923	18.4	5,537,923	38.3	繰出金		1,081,184	3.7	823,020	682,399	4.5			
特別交付税		655,103	2.2	0	0.0	前年度繰上充用金		0	0.0	0	0	0.0			
震災復興特別交付税		0	0.0	0	0.0										
小計		15,015,994	49.8	14,096,332	97.4	投資的経費		4,467,551	15.3	1,248,226		経常収支比率			
交通安全対策特別交付金		8,608	0.0	8,608	0.1	うち人件費		194,302	0.7	194,302		92.0%			
分担金及び負担金		491,096	1.6	0	0.0	内 普通建設事業費		4,317,835	14.8	1,197,924		減収補てん債特例分及び臨時財政対策債を 経常一般財源等から除いた経常収支比率			
使用料		189,655	0.6	19,311	0.1	補助		1,486,161	5.1	114,747		96.5%			
手数料		98,380	0.3	0	0.0	単独		2,799,406	9.6	1,065,409		経常経費充当一般財源等			
国庫支出金		7,238,373	24.0	0	0.0	県営事業負担金		32,268	0.1	17,768		13,961,969千円			
国庫提供施設等交付金		0	0.0	0	0.0	同級他団体		0	0.0	0		一般財源等総額			
県支出金		1,469,904	4.9	0	0.0	災害復旧事業費		149,716	0.5	50,302		18,296,417千円			
財産収入		44,228	0.2	12,030	0.1	失業対策事業費		0	0.0	0		ラスパイレース指数			
寄附金		27,595	0.1	0	0.0							R2.4.1現在 97.9			
繰入金		554,820	1.9	0	0.0										
繰越金		940,784	3.1	0	0.0										
諸収入		871,859	2.9	338,356	2.3										
地方債		3,206,300	10.6	0	0.0										
合計		30,157,596	100.0	14,474,637	100.0	合計		29,218,593	100.0	17,357,414					
市町村民税								目的別歳出							
区分		決算額	構成比	増減率	基準 100 × 税額 75	超過課税分 収入済額	区分	決算額	構成比	一般財源等					
		千円	%	%	千円	千円		千円	%	千円					
普通税		6,877,815	96.1	△ 0.2	7,118,864	89,144	議会費	188,039	0.6	188,039					
市町村民税		2,282,003	31.9	△ 0.3	2,478,704	0	総務費	7,811,854	26.7	2,616,950					
個人分		377,191	5.3	8.0	460,632	89,144	民生費	6,407,993	21.9	3,849,202					
法人分		3,798,300	53.0	△ 1.3	3,755,044	0	衛生費	2,932,963	10.0	2,645,393					
固定資産税		169,700	2.4	3.5	168,568	0	労働費	83,681	0.3	82,847					
軽自動車税		250,621	3.5	△ 1.5	255,916	0	農林水産業費	1,253,538	4.3	652,482					
市町村たばこ税		0	0.0	0.0	0	0	商工費	1,532,811	5.3	1,143,521					
鉱産税		0	0.0	0.0	0	0	土木費	1,981,467	6.8	813,606					
特別土地保有税		0	0.0	0.0	0	0	消防費	1,488,060	5.1	926,570					
法定外普通税		0	0.0	0.0	0	0	教育費	2,680,715	9.2	1,712,667					
目的税		279,531	3.9	△ 4.2		0	災害復旧費	149,716	0.5	50,302					
入湯税		14,972	0.2	△ 8.5		0	公債費	2,707,756	9.3	2,675,835					
事業所税		0	0.0	0.0		0	諸支出金	0	0.0	0					
都市計画税		264,559	3.7	△ 3.8		0	前年度繰上充用金	0	0.0	0					
水利地益税等		0	0.0	0.0		0									
旧法による税		0	0.0	0.0		0									
合計		7,157,346	100.0	△ 0.4	7,118,864	89,144	合計	29,218,593	100.0	17,357,414					
適用税率の状況								徴収率							
市町村民税	個人	均等割	3,000円	市町村民税	法人分	均等割	(1号) 50,000円	(4号) 150,000円	区分	現年課税分	滞納繰越分	合計			
													標準税率に 対する比率 1.00	(2号) 120,000円	(5号) 160,000円
						(3号) 130,000円 <td>(6号) 400,000円 <td>(7号) 410,000円 <td>純固定資産税</td> <td>98.5</td> <td>24.3</td> <td>96.0</td> </td></td>	(6号) 400,000円 <td>(7号) 410,000円 <td>純固定資産税</td> <td>98.5</td> <td>24.3</td> <td>96.0</td> </td>	(7号) 410,000円 <td>純固定資産税</td> <td>98.5</td> <td>24.3</td> <td>96.0</td>	純固定資産税	98.5	24.3	96.0			
						法人税割 8.4 / 100 <td>(8号) 1,750,000円 <td>(9号) 3,000,000円 <td>合計(税全体)</td> <td>98.3</td> <td>27.9</td> <td>96.3</td> </td></td>	(8号) 1,750,000円 <td>(9号) 3,000,000円 <td>合計(税全体)</td> <td>98.3</td> <td>27.9</td> <td>96.3</td> </td>	(9号) 3,000,000円 <td>合計(税全体)</td> <td>98.3</td> <td>27.9</td> <td>96.3</td>	合計(税全体)	98.3	27.9	96.3			
						固定資産税 1.40 / 100									

# 令和2年度 目的税（入湯税、都市計画税）などの充当状況

## 1 地方消費税交付金のうち社会保障財源分の充当状況

(単位：千円)

事業名	経費	財源内訳			
		特定財源	市債	一般財源	
				地方消費税交付金(社会保障財源分)	その他
民生委員児童委員活動援助事業	12,703	7,145		626	4,932
行旅病人及び行旅死取扱事業	116	116			
社会福祉援助事業	55,799	8,307		5,353	42,139
地域福祉計画推進事業	24	12		1	11
生活困窮者自立支援等事業	17,386	10,572		768	6,046
福祉円卓会議運営事業	266			30	236
障害者計画等策定・推進事業	1,417			160	1,257
社会福祉施設管理事業	14,705			1,657	13,048
障害者福祉事業	10,223			1,152	9,071
福祉手当等給付事業	75,716	13,509		7,011	55,196
障害者助成事業	957			108	849
障害者自立支援事業	995,139	736,965		29,098	229,076
地域生活支援事業	87,655	28,870		6,625	52,160
重症心身障害児・者短期入所利用支援事業	84	42		5	37
障害児支援事業	106,364	70,778		4,011	31,575
共同生活援助事業	7,930	3,965		447	3,518
障害者医療費助成事業	84,085	40,985		4,858	38,242
精神障害者医療費助成事業	37,258	8,755		3,212	25,291
福祉給付金支給事業	2,163			244	1,919
後期高齢者福祉医療費給付事業	93,199	43,878		5,559	43,762
高齢者福祉事業	80,386	1,766	3,000	8,523	67,097
敬老事業	7,726			871	6,855
高齢者保護措置事業	43,493	8,056		3,994	31,443
高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	3,314	582		308	2,424
老人ホーム管理事業	92,278	2,625		10,104	79,549
老人福祉施設管理事業	29,539	3,055		2,985	23,499
家庭児童相談事業	4				4
放課後児童対策事業	75,030	48,022		3,044	23,964
ファミリーサポート事業	714	438		31	245
新城版こども園推進事業	1,497			169	1,328
子ども・子育て支援事業	63,148	45,034		2,042	16,072
児童虐待等防止対策事業	125			14	111
市遺児手当支給事業	14,822			1,670	13,152
児童扶養手当支給事業	114,691	41,499		8,249	64,943
母子生活支援事業	271			31	240
児童手当支給事業	564,085	474,323		10,117	79,645
子育て短期支援事業					
母子自立支援事業	1	1			
子ども医療費助成事業	121,473	27,029		10,644	83,800
母子家庭等医療費助成事業	17,770	8,883		1,002	7,885
人件費(保育所管理事業)	660,339	10,664		73,222	576,453
保育所管理事業	391,675	46,938		38,854	305,883
人件費(おおぞら園管理運営事業)	21,833			2,461	19,372
おおぞら園管理運営事業	6,331	874		615	4,842
児童館運営事業	11,280			1,271	10,009
人件費(地域子育て支援センター事業)	3,660	414		366	2,880
地域子育て支援センター運営事業	7,412	4,852		288	2,272
扶助事業	210,830	173,793		4,174	32,863
災害救助事業	400			45	355
就学援助事業(小学校費)	10,518	10		1,184	9,324
就学奨励事業(小学校費)	1,886	938		107	841
就学援助事業(中学校費)	9,223	60		1,033	8,130
就学奨励事業(中学校費)	851	425		48	378
小計	4,169,794	1,874,180	3,000	258,391	2,034,223

事業名	経費	財源内訳				
		特定財源	市債	一般財源		
				地方消費税 交付金(社会 保障財源分)	その他	
社会保険	国民年金費 国民健康保険事業特別会計繰出金 後期高齢者医療特別会計繰出金 東三河広域連合介護保険事業負担金	1,839 318,303 710,469 664,090	1,798 150,635 101,928		5 18,897 68,586 74,847	36 148,771 539,955 589,243
	小計	1,694,701	254,361		162,335	1,278,005
保健衛生	救急医療対策事業 へき地医療支援事業 看護師修学資金貸付事業 保健事業 保健対策推進事業 保健センター管理事業 未熟児対策事業 すこやか子育て事業 乳幼児等健康診査事業 予防接種事業 休日診療所運営事業 夜間診療所運営事業 人件費(訪問看護事業) 訪問看護事業 人件費(助産所運営事業) 助産所運営事業 病院事業会計負担金 病院事業会計出資金 国民健康保険診療所特別会計繰出金	32,564 2,271 7,900 32,556 75 15,016 1,357 309 28,377 141,810 19,421 47,220 80,671 9,883 26,383 3,549 798,823 82,135 28,569	6,910 75 4,769 158 747 56 628 25,741 7,264 9,304 969	5,600	2,891 247 890 3,132 8 1,675 69 28 3,127 13,082 1,370 4,273 2,973 291 90,032 9,257 2,589	22,763 1,949 7,010 24,655 67 13,183 541 225 24,622 102,987 10,787 33,643 80,671 9,883 23,410 2,289 708,791 72,878 20,380
	小計	1,358,889	56,621	5,600	135,934	1,160,734
	合計	7,223,384	2,185,162	8,600	556,660	4,472,962

## 2 入湯税充当状況

(単位：千円)

事業名	経費	財源内訳			
		特定財源	市債	一般財源	
				入湯税	その他
最終処分場維持管理事業 鳳来ゆ〜ゆ〜ありいな管理運営事業 自然公園等管理事業 観光施設等維持管理事業 湯谷温泉街振興事業	6,552 98,242 44,117 50,951	15,881	18,600	680 6,616 4,357 3,318	5,872 57,145 37,639 28,666
合計	199,862	36,969	18,600	14,971	129,322

## 3 都市計画税充当状況

(単位：千円)

事業名	経費	財源内訳				
		特定財源	市債	一般財源		
				都市計画税	その他	
都市計画 事業費等	市街地整備事業 都市公園等管理事業 中心市街地活性化対策事業 土地利用見直し事業 下水道事業会計負担金・出資金	189,301 18,911 92,943 297 224,214	26,372 11,085	142,700 76,600	14,606 13,655 3,797 214 161,895	5,623 5,256 1,461 83 62,319
	小計	525,666	37,457	219,300	194,167	74,742
	市償還費(都市計画事業費分)	70,393			70,393	
	合計	596,059	37,457	219,300	264,560	74,742

## 4 森林環境譲与税充当状況

(単位：千円)

事業名	経費	財源内訳			
		特定財源	市債	一般財源	
				森林環境譲与税	その他
森林整備事業 湯谷温泉街振興事業	164,394 50,951	80,373 18,967		82,693 18,095	1,328 13,889
合計	215,345	99,340		100,788	15,217



ザイセイの話（令和3年度）

令和3年10月発行

編集 愛知県新城市総務部財政課

〒441-1392 愛知県新城市字東入船115番地

TEL 0536-23-1111（代表）

0536-23-7616（ダイヤルイン）

FAX 0536-23-2002

E-mail [zaisei@city.shinshiro.lg.jp](mailto:zaisei@city.shinshiro.lg.jp)

URL <https://www.city.shinshiro.lg.jp>